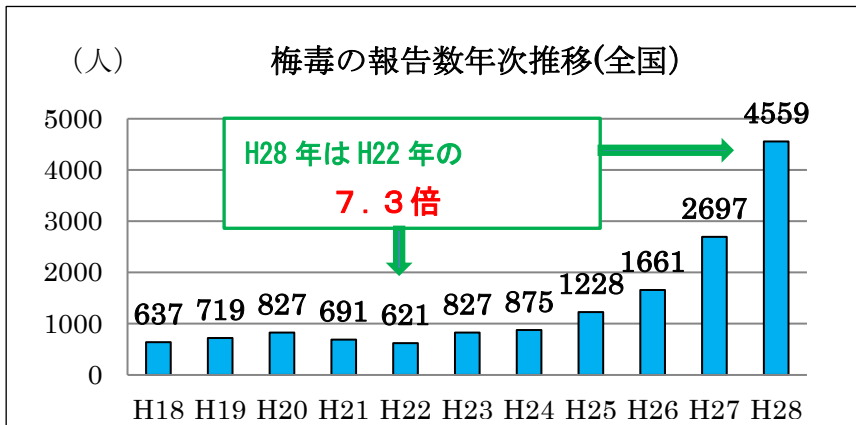


梅毒患者が増えています！

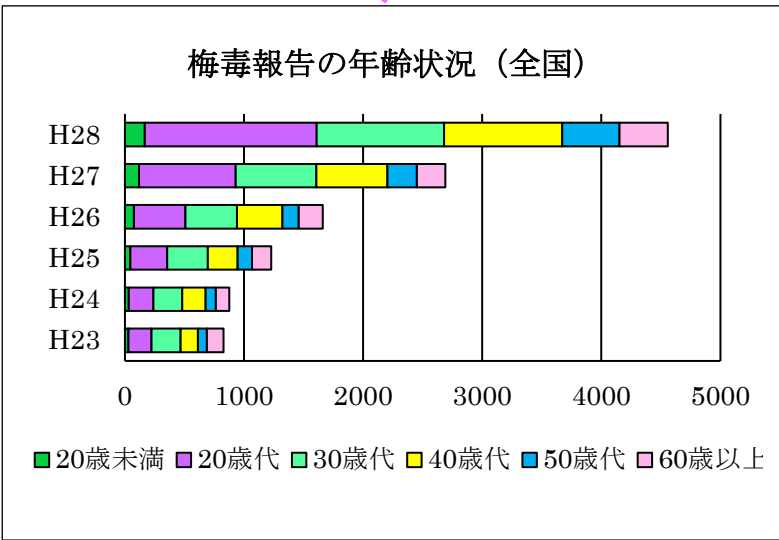
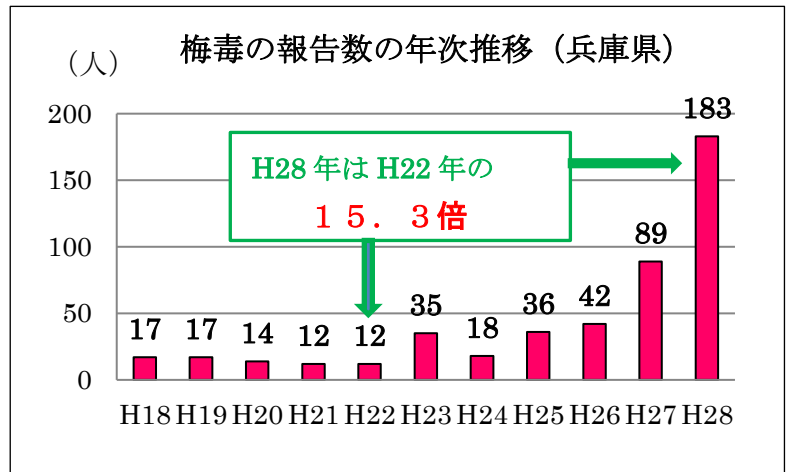
全国の梅毒の報告数について、平成22年以降の増加が顕著であり、平成28年（暫定値）は平成22年の**7.3倍**となっています。

兵庫県においては、平成22年まで減少傾向にありましたが、平成23年に35人と急増、平成24年は18人に減少しましたが、以後著しい増加傾向にあります。

平成28年は183人（暫定値）の報告があり、**平成27年の2倍以上**になっています。**平成22年と比較すると15.3倍**です。



年齢をみるとどの年齢も著しい増加が見られています。特に**20歳代**では**平成28年は平成23年の7倍に**増えています。



【検査について】
 ◆感染の有無を確認するには、**血液検査を受けることが必要**です。心配な場合は、**医療機関**（男性：泌尿器科 女性：産婦人科）を受診しましょう。
 ◆兵庫県の健康福祉事務所では、エイズ相談と併せて、梅毒も**無料匿名**で検査（予約制）しています。
加東健康福祉事務所
 毎月第1・第3木曜日午後（事前予約制）
 申し込み、問い合わせ先
加東健康福祉事務所
 健康管理課 0795-42-9436

梅毒って？



病原体	梅毒トレポレーマという病原菌
感染経路	性交、オーラルセックス等の直接接触感染、母子感染等
症状	<p>感染したあと、経過した期間によって、症状の出現する場所や内容が異なります</p> <p>【第Ⅰ期】感染後約3週間 初期には、感染がおきた部位（主に陰部、口唇部、口腔内、肛門等）にしこりができることがあります。 また、股の付け根の部分（鼠径部）のリンパ節が腫れることもあります。痛みがないことも多く、治療をしなくても症状は自然に軽快します。 しかし、体内から病原体いなくなったわけではなく、他の人にうつす可能性があります。</p> <p>【第Ⅱ期】感染後数ヶ月 治療をしないで3ヶ月以上経過すると、病原体が血液によって全身に運ばれ、手のひら、足の裏、体全体にうっすらと赤い発疹がでることがあります。 発疹は治療しなくても数週間以内に消える場合があります、再発を繰り返すこともあります。治療しない限り、病原菌である梅毒トレポレーマは体内に残っており、梅毒が治ったわけではありません。この時期に適切な治療を受けられなかった場合、数年後に複数の臓器の障害につながる可能性があります。</p> <p>【晩期顕性梅毒】感染後数年 感染後、数年を経過すると、皮膚や筋肉、骨などにゴムのような腫瘍（ゴム腫）が発生することがあります。また、心臓、血管、脳などの複数の臓器に病変が生じて、重傷化するケースもあります。</p>
治療	一般的には外来で処方された抗菌薬を内服します。（病状によって医師が判断されます）きちんと治療を行えば、完治させることが可能です。

* 感染した人の血液中には一定の抗体ができますが、再感染を予防できるわけではありません。繰り返し感染する可能性があります。

* 妊娠している人が梅毒に感染すると、胎盤を通して胎児に感染し、死産、早産、奇形が起こることがあります（先天梅毒）。

【予防について】

◆性交渉の相手が増えれば感染する危険も高まります。**複数の相手と無防備な関係をもたないことが大切です。**

◆感染を予防するためには、パートナーとよく話し合い、お互いを守るために**正しくコンドームを使いましょう。**

ただし、コンドームを使用しても100%予防できると過信せず、皮膚や粘膜に異常があった場合は性的な接触を控えましょう